

法政大学図書館

「進取の気象」あふれる法政大学にも、長い歴史の中で法政大学にゆかりのある先人たちから寄贈を受けるなどした知の遺産の数々が保存されています。とくに市ケ谷図書館には、誰しもが驚く貴重な蔵書があります。開架に並ぶ図書だけを見て侮るなかれ！ ここでは、その一端をご紹介します。

URL <http://www.hosei.ac.jp/library/collection/>

●●● 正岡子規文庫

俳句・短歌と、日本の詩歌を革新したことで名高い正岡子規(1867-1902)が所蔵していた書籍が2,000冊余、貴重書として保管されています。子規の没後、その蔵書を守り伝えた門人寒川鼠骨によって1949年に法政大学に寄贈されました。これには、子規との交友が知られる夏目漱石の門人で、この時、法政大学の総長であった能楽研究家で英文学者の野上豊一郎、教員の田村輝雄らの尽力があったといえます。自筆ノート類の他、子規が力を入れていた俳諧の書籍を中心に、中国で刊行されたものも含めて数多くの漢詩文の書籍、写生を唱えた子規らしく関心が高かった絵画関係の本、また、明治の知識人らしい英文の書籍など、多種多様な書籍が多数含まれています。熱心に読み込んだらしく、それらにはときに子規の書き込みが見られることも貴重です。

これらの文庫の書籍は市ケ谷図書館で閲覧できます。希望日の前日までにB1階閉架カウンターで希望図書を指定して申し込みましょう。



学生時代の
子規のノート(自筆)



中国明版『古今小説』

馮夢竜編の口語(白話)による短編小説集。上田秋成『雨月物語』をはじめ多くの日本の作品に影響を与えたことが知られています。世界に3点しか現存しないとされる貴重な典籍です。



『父の恩』

二代目市川團十郎が父の初代団十郎追善のために編んだ俳書。錦絵(多色摺り浮世絵)以前の色刷りの技術をうかがわせる貴重な書物です。

●●● 和辻哲郎文庫

「和辻倫理学」として知られる独自の思想体系を築いた和辻哲郎(1889-1960)の旧蔵書です。和辻と聞いてピンとこない人も、『古寺巡礼』(1919)の著者といったら分かるでしょうか。かつて法政大学文学部哲学科で教鞭をとったこともある和辻の没後、その夫人照の意志によって、友人で法政大学文学部哲学科教授谷川徹三(後に総長、詩人・谷川俊太郎の父)を介して、一括して寄贈されました。

和・洋併せて5,000冊におよぶその蔵書には、随所に疑問や論評などの書き込みが見られ、それらを通して、宗教や古典文学、芸能、風土など多岐にわたる広い視野から日本人の精神史を捉えた和辻の思考、研究の跡がたどれる点が何よりも貴重です。



『カント全集』に挟まれていた和辻自筆メモ

●●● 三木清文庫

本学の教授を務め、治安維持法違反の嫌疑を掛けられて獄中で非業の死を遂げた哲学者三木清(1897-1945)の旧蔵書8,000余冊です。人生の諸要素を考える手がかりとして今も広く読み継がれる『人生論ノート』で知る人も多いでしょう。京都で西田幾多郎に、ドイツでハイデggerに学んだ三木の膨大な蔵書は、その半数近くが洋書で、当時のドイツ哲学文献の宝庫です。三木の没後、遺族に守られていたものを1950年に本学図書館が購入しました。

本学多摩図書館には、三木と同じく西田門下で、三木の跡を継いで本学教授を務めた戸坂潤(1900-1945)の旧蔵書約1,500冊も収められています。



三木清旧蔵書



法政大学図書館編,1991,『法政大学所蔵文庫案内』法政大学



牧野英二,2010,『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ! 和辻倫理学の今日的意義』法政大学出版局

野上記念法政大学能楽研究所

能楽といえば、日本を代表する伝統芸能。2001年には、日本の伝統芸能としては初めてユネスコの世界無形文化遺産に登録され、いまや日本ばかりではなく、人類が共有すべき「無形遺産の傑作」として注目を集めています。

この能楽の研究で世界中に知られているのが、ポアソナード・タワー 23階にある野上記念法政大学能楽研究所です。本学の元総長・野上豊一郎博士を記念して1952年に創設されたこの研究所は、能楽を専門とする研究機関として、長い歴史と実績を誇り、世界の能楽研究の一大拠点となっています。

ここには能楽の歴史を伝える数多くの貴重な資料が保管され、いまでもその整理と研究が続けられています。